



がっこう  
**学校だより**  
**6月号**



令和4年5月27日  
 横浜市立三ツ沢小学校

スマホじゃなくてぼくを見て

こうちょう 校長  
 たかぎ 高木  
 のぶゆき 伸之

がっこうの遊具からせせらぎ側のがけを見たとヤマボウシの白い花が  
 新緑の中に混じり、美しい姿を見せています。上を向いて、花び  
 らをいっぱい広げて咲く姿が、成長していく子どもたちの姿に  
 重なり、さわやかな季節の中で見ていてうれしくなります。



学校では、各学年ごとに遠足や体験学習など学校の外に学習の場  
 を求めて様々な学びをしています。

少し前に、横浜市安全教育振興会（安振会）が主催する、「健康と安全ポスターコンクール」の  
 中の小学校の優秀作品に「スマホじゃなくてぼくを見て」という作品が選ばれました。私は、現代  
 の子育ての問題点をズバリと指摘する素晴らしい言葉だと感じました。

今の子どもたちは生まれながらにしてインターネットがある社会で生活をしています。コロナ禍  
 の生活様式も3年目に突入し、昨年度からは、GIGAスクール構想により、一人一台の端末の授業  
 は、これまでの教科書、ノート主体の授業とは大きく姿を変えています。先日、内閣府が行った  
 青少年のインターネット利用調査の結果では、51.9%の小学生がインターネットを1日3時間  
 以上利用している（2021年）という発表がありました。このようなネット社会になってわずか  
 十数年ですが、インターネットは急速に社会に浸透し、買い物などの生活スタイルや様々な職業  
 にも変化が見られるようになりました。世の中がこれまで経験してこなかった社会になり、詐欺な  
 どの被害に遭ったり、知らないうちに加害者、あるいは犯罪者になったりするケースも報じられて  
 います。子どもたちはそういう社会の中を、正しく、そしてたくましく歩んでいくこととなります。

私が子どもだったころは、テレビも白黒で、みんなで一つの家に集まってアニメやドラマを見て  
 いました。タイガーマスク、巨人の星など、毎週友達とワイワイ騒ぎながら視聴し、胸を熱くした  
 ことを覚えています。画面は今のタブレットほどの大きさでしたが、スイッチを入れてから3分くら  
 いしないとブラウン管の画像が映らず、主題歌を聞きながら画像が出るのを今か今かと待っていま  
 した。今のようにバーチャルの世界を画面に映してゲームができるなんて考えられませんでした。  
 ましてや、離れている人とともにゲームを楽しむなんて想像すらできませんでした。

サイバー犯罪防止という観点はもちろん大切ですが、子どもは子どもらしく、集団というつながり  
 の中で夢中になって遊ぶ経験を大切にしつつ、さまざまな問題を解決しながらこれからの未来を  
 たくましく生きていってほしいと思います。

そのためには、私たち大人が、インターネットとの向き合い方を見直し、しっかりと子どもを見  
 つめ、心が通う温かなつながりの中で前向きにかかわっていく必要があると思います。「スマホじ  
 ゃなくてぼくを見て」しっかりと心に刻みたいと思います。